

littlemoreBCCKS

第 写真集公募展
回

screening
panel



littlemoreBCKS第一回写真集公募展 4時間にも及んだ最終審査会の全貌！

アートディレクターの葛西薫、中島英樹、服部一成。写真家の宇壽山貴久子、梅佳代、大森克己、瀧本幹也。リトルモア代表の孫家邦、同編集者の大嶺洋子。そしてBCKSのコンセプトプランナーでありグラフィックデザイナーの松本弦人。この多忙極まるメンバーが、『写真集公募展』という新しい公募展で未知の才能を見つけるために、11月某日、都内某所で開かれた最終審査会場に集まった。

各審査員には事前に、応募作品の中から「推薦10作品」と「強く推薦する2作品」を選出してもらっており、一票でも入った作品はこの日、審査員全員で再度見ることになっていた。

出来る限り投票ではなく議論をベースとしたこの最終審査会、4時間にも及んだ白熱した議論を、是非ご堪能下さい。

※このブックは、2008年8月8日～10月27日に開催された
「littlemoreBCKS第一回写真集公募展」<http://littlemore.books.jp/>
の最終審査会の様子をまとめたブックです。

※上記審査員名五十音順
※文中敬称略

18:10 審査会スタート

孫と松本の簡単な挨拶で始まった最終審査会。

推薦票の入った41作品を見はじめると

すぐさまディスカッションが始まった。



審査会には全審査員が参加した。

松本: 本日はお忙しい中ありがとうございます。
この審査会は孫さんの「全員で話し合ってやらな
おもしろい」というワガママなひと言で決まりま
した。でもやはりこうして集まったほうがよかつ
たなあ、と、始まる前から思っています(笑)。
宜しくお願いします。

孫: 大賞はリトルモアから出版ということになって
いるんですけども、地味だとか、売り物になら
ない、等はあまりお考えにならずに審査して頂け
ればと思います。泣きながら出版しますんで
(笑)。

葛西: すばらしい、涙の出版。

大森: ひとつ気になることがあるんですが、いい作
品はそんなに気にならないんですけども、ここ
(BOOKSという仕組み)で見て面白い、というこ
とで審査すればいいんですよね?

松本: まあ、とはいえ皆さん紙のプロなので、本に
なった時も想像して審査してもらえるかなーと思
っています。

大森: なるほど。

孫: 一枚一枚の評価ではなく、今回は「写真集」と
いうことで応募しているので、編集も含め、写真
集として評価して頂きたいなと思います。



↑ 『les neuf oiseaux sur les dix toits.』
<http://littlemore.books.jp/#B16470,P57333>

↓ 『線路とその周辺』
<http://littlemore.books.jp/#B17565,P72184>

『les neuf oiseaux sur les dix toits.』

葛西:何か悲しい感じと、自分の部屋から見えるものを撮ったと書いてあったのでそれで好きになりました。個人的でいいなあと。

松本:綺麗ですよ。

『線路とその周辺』

大森:単純に楽しいな〜と思って、それがいいと思いました。ブレてたりするし、多分カメラもチャラいんだけど、超かっこいいカットがあったりするんだよね。好きで撮ってるな〜っていう感じ。

中島:ほお…勉強になるなあ…。

松本:タイトルもいいよね。

大森:そうそう、タイトルもいい。

20:20 最終審査対象全41作品閲覧終了

いよいよ大賞ほか各賞選出という段階で、
多くの審査員が気になっていた規定外作品『my little dead dick』の話
になり、大賞の審査基準がゆらぎはじめた。
そこで、まず個人賞を選出して大賞への審査基準を模索することに。



まだまだこれからです。

松本:結局…大賞候補はひとつも出ていない？

宇山山:私は正直『my little dead dick』(※)が規定外だと分かった時、大賞該当作品は無いと思いました。

大森:うん、それくらい強い作品だったよね。

松本:俺も『my little dead dick』が大賞候補だと思っていた。

中島:だけど規定外は規定外だから話に入れないまうがいいと思うな。

松本:じゃあ、大賞候補作品がある人、言ってもらえませんか？

中島:う〜ん、悪い作品が無いからねえ…。レベルが高過ぎるんだよね。まず個人賞出しませんか？

葛西:はい、僕もそれが良いと思います。その中から大賞候補が出てくるかもしれませんし。

松本:じゃあそうしましょうか。

宇山山:私は『ふきそくへんか』。

松本:俺は『Hach schoön ! 』。

中島:『』と『』か『anywhere and nowhere』。

荒本:僕は『瞬きするモデル』か『』と『』。

服部:僕も『瞬きするモデル』いいと思った。あとは『いとしのユー力』。

大森:俺も『瞬きするモデル』が一番だったな。それか『線路とその周辺』ですね。

※ 『my little dead dick』
http://littlenore.books.jp/#B17164_P66222



第一回写真集公募展

大森:はい(挙手)、大賞を無理矢理出そうっていうなら、『線路とその周辺』(笑)。これを刷ったのはちょっと見たい。なおかつ暗くなくて、誰でも出来るけど誰でもやってない。単純に気持ちいいんだよね、大きい小さいは別にして。例えば『Hach schoön!』は携帯のドットとか、今っぽさを意識させるんだけど、線路は「あ、電車好きなんだ」って言うていて、よく見ると実はテクスチャーがかなり面白い、っていう感じはするな。

松本:出版…出来ないねコレは(笑)。

孫:いや、するよ。大賞は出版という約束やから。泣きながら(笑)。

大森:まあ、自分もちょっと無理矢理言っている感じはあるんだけどね(笑)。

中島:俺はそう思うと、紙とモニターというメディアの違いを考えると、『Hach schoön!』の携帯写真は全く新しく感じる。

松本:人気ですね、『Hach schoön!』。

孫:じゃあ、『Hach schoön!』と『線路とその周辺』、もう一回見てみませんか？

審査会beck

【2作品閲覧後】

大森:やっぱり俺は『線路とその周辺』のほうが好きかな、好き嫌いと言うと。これ全部携帯で撮影してるのかなあ。

松本:全部携帯じゃないですかね、多分。すごいね、携帯で撮った2作品が残ってる。

中島:本当の電車好きだったらこうはいかないよね。

葛西:この呑気でほっとする中距離感がいいんじゃないかな。マニアでも無く、写真は皆のものっていう感じがする。よく言うと。

松本:俺もすごい好きなんだけど、『線路とその周辺』は大賞とするには思い切り過ぎかなと思う。



手元のPCでは各自気になる作品を閲覧する。



仕事と作品のバランスが新しい瀧本幹也。

松本:『青春吉日』はナシですか?梅ちゃんは?

梅:私は『青春吉日』が一番面白いと思う。

松本:俺もね、結局、該当無しにするか『青春吉日』にするしかなかった。で、少し無理矢理『青春吉日』に票を入れた。

松本:『』と『』は?

瀧本:『』と『』もいいですけどね。

松本:『いとしのユーカ』は?

葛西:ナシでいいんじゃないでしょうか。

服部:まあ大賞としてはナシでしょうね。

松本:『虹のでるカメラ』はアリですね。

葛西:それから『線路とその周辺』。

松本:あとは『瞬きするモデル』、以上ですか。

大森:葛西さん、やっぱり『青春吉日』は大賞にしたいくないですか?

葛西:うん、それは何だか違うところに任せていいような気がするんですよ。

服部:僕は『青春吉日』は暗いとかネガティブな要素は全く感じなくて、むしろ楽しいっていう風に思ったけど、やっぱり「こういうタイプの写真集」という既視感はあるかな。『青春吉日』のネガティブな要素は僕はそこくらい。

『線路とその周辺』

宇山山: 私、これは全然いいと思いませんけどね。
どこがいいんですか？

松本: まあ、それが分からない人がいても当然だと思
うし、分かる人もいるんだと思うんだけど。

中島: 今その辺を共有してる場合じゃないからね。

松本: これはさあ、服部くんがデザインしたとして
も救えないんじゃないかなあ、って気がしてなら
ないんだけど（笑）。

孫: 服部さんが救えるか救えないか、が基準になっ
とる（笑）。

葛西: まあまあ、じゃあ俺がやるから大丈夫
（笑）。

一同: おおー。

大森: それ見たい。

中島: じゃあ、最後は投票にしたほうがいいんじ
ゃない？

松本: いいですか？まだ話しますか？

大森: 割れたらどうするの？

松本: まあ、とりあえず投票を。

服部: 今もう一回見てみて、『varnish and
mortar』とか『peninsula』とかもいいなと思っ
てたんですよ。でもBOCKSでやってる良さとかが
『ふきそくへんか』にはやっぱりあるような気が
して…。



ノーブルとバンクを併せ持つ服部一成（左）。

荒本:一人3票、3作品を選んで投票するっていうのは?

松本:そうするとね、皆が一番だと思ってないもの(2位、3位)が優勝しちゃうんだよね。

大森:そーなんだよねー。

中島:だったら初めから大賞はあるのだろうか?

大森:大賞は無しってこと?

中島:大賞無しというのは僕は初めから考えてないけれど。

葛西:大賞は出すべきだと思うよ。

孫:じゃあそろそろ…こんなに話し合ってますし、ひとり一票で決めましょうよ。

松本:それで一位が大賞ね?文句無し?

葛西:ちょっと一分くらい静かに考えさせてください。

大森:恐らく、2票2票とかに票が割れると思うんですよ。そうしたら決選投票?

松本:ですね。じゃあそれでいいですね?

中島:俺は大賞を決めるために来たんだから、絶対大賞は決めたい。

大森:でも応募作品自体がすごく面白い。この公募展はWEBのみの応募ってことで足切りがあるわけじゃないですか、ある意味で。そこがやっぱり面白いと思う。

服部:『線路とその周辺』みたいのも出てくるしね。

